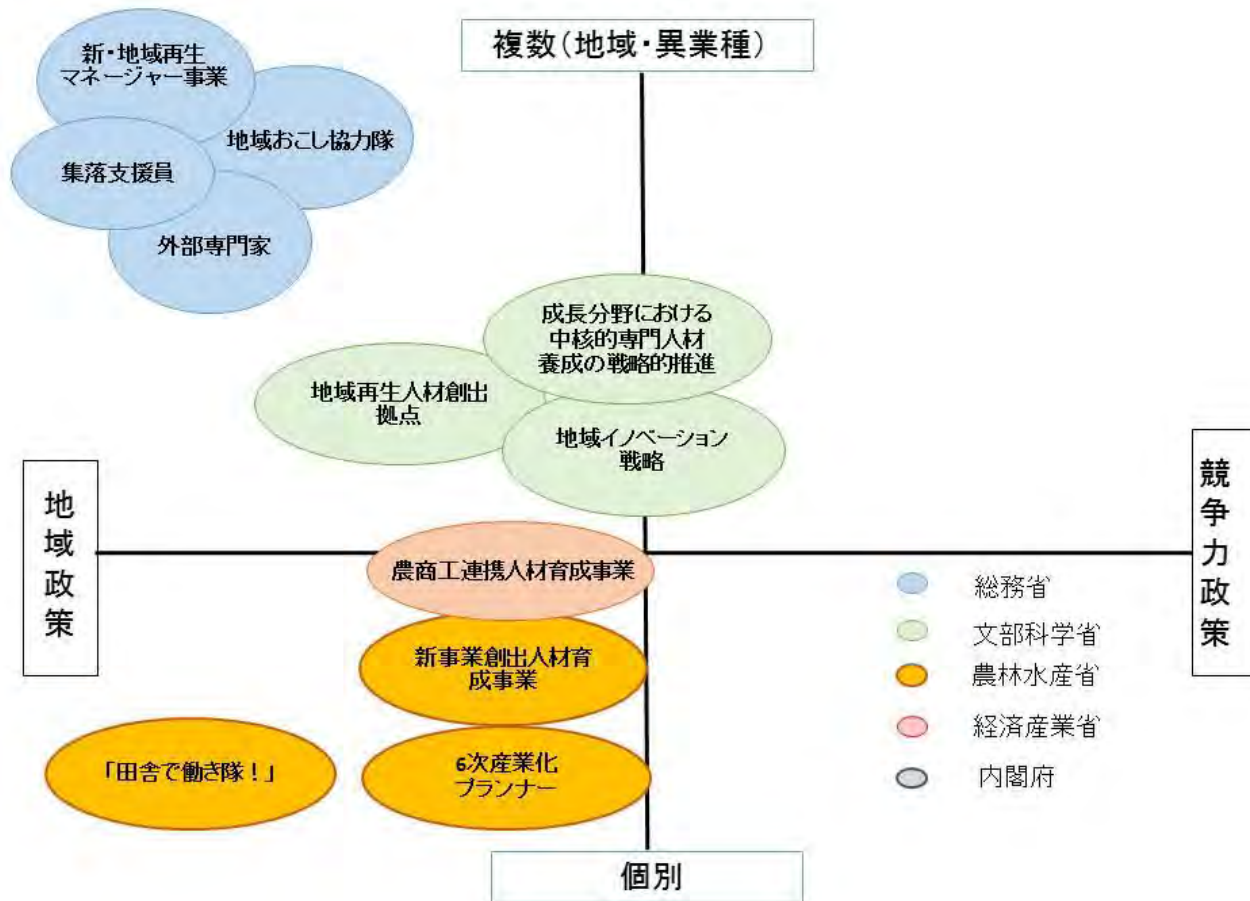


日本における農村リーダー人材の育成

農林水産政策研究所

小柴 有理江

国内の農村地域における 人材活用・人材育成に係る施策



資料：田端朗子（2014）「日本の各省庁が展開する農村人材育成制度 ―外部人材活用・地域人材育成・拠点の形成―」，
農林水産政策研究所『農村イノベーションのための人材と組織の育成：海外と日本の動き』131ページより。

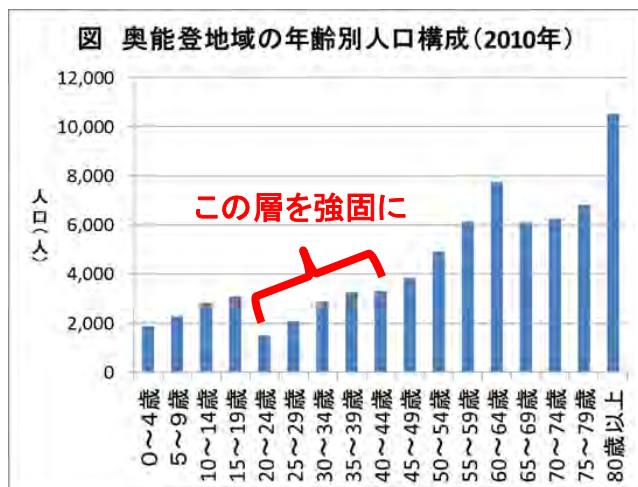
大学等による人材育成の取組み

地域の内発性を醸成しつつ、リーダー的な役割を果たし、地域課題にアプローチ
 ⇒幅広い知識の習得，経験の蓄積が必要
 ⇒長期的，体系的な人材育成プログラムを提供している大学等の取組みに着目



事業名	いわて アグリフロンティア スクール	農業 ビジネス起業人 育成コース	やまがた6次産業 ビジネス・スクール	土佐フードビジネス クリエイター 人材創出事業	地域 マネジメントスキル 修得講座	「能登里山 マイスター」 養成プログラム
実施機関(代表)	岩手大学	静岡大学大学院	(株)フィデア 総合研究所	高知大学	愛媛大学	金沢大学
開始年	2004年	2008年	2008年	2007年	2008年	2007年
養成する人材の タイプ	実践者	実践者	実践者	実践者	実践者＋リーダー	実践者＋リーダー
養成する 人材像	経営革新、地域農業 の確立に取り組むこ とができる先進的な 農業経営者の育成	農業を新たなビジネ スチャンスとして起業 できる人材の育成	食農ビジネスの高付 加価値を実現するた めに、経営感覚と起 業家精神をもって6次 産業化に取り組む人 材・経営者を育成	食品産業の中核人材 の育成	農山漁村の地域リー ダー育成	地域資源・環境を生 かした地域産業振興 のリーダー養成
養成期間	1年間	2年間	1年間	・Aコース:2年間 ・B・Cコース:1年間	1年間	2年間
取得できる 資格・称号	アグリ管理士	農学修士	— (審査会で認定され た場合、山形大学の履 修証明書)	フードビジネスクリ エーター	愛媛大学地域再生マ ネージャー	能登里山マイスター

金沢大学による人材育成の取組み



高齢化率(2010年)

輪島市: 38.0%

珠洲市: 41.1%

穴水町: 39.4%

能登町: 39.8%



能登半島の「強み」

環境: 豊かな里山・里海、生物多様性

(2011年GIAHS認定)

産業: 伝統産業・食品加工技術

文化: 祭り・農耕儀礼



大学キャンパスから、能登半島の現場へ



3つの要素を兼ね備えた人材を養成

- 都会の再チャレンジ組 (UIJターン)
- 自治体・JAの若手職員
- 農林漁業、地元企業の後継者・就業希望者

対象：45歳以下の若者

2年間のカリキュラム

卒論・経営計画
の提出

5年間で60人養成

【目指す人材像】

① 農林漁業人材

新たな技術を取り入れる
(環境配慮型農林漁業、情報技術等)

② ビジネス人材

消費者のニーズを取り入れた
付加価値をつけることができる

③ 地域リーダー人材

連携により地域ぐるみの
新事業や活動を創出できる

点→線

線→面

これからの能登を担う人材
「能登里山マイスター」として自立

外部
人材

内部
人材

U・I・Jターン

地域内外の人材を同時に養成

- ・ 人材の補充
- ・ ネットワーク構築

カリキュラムの特徴

科目名		履修年次	単位	キーワード
里山マイスター演・実習Ⅰ	A	1年次	2	作物栽培実習 (露地・施設野菜、果樹)
里山マイスター演・実習Ⅱ	A	2年次	2	
里山マイスター演・実習Ⅰ	B	栽培・加工技術、栽培計画		
里山マイスター演・実習Ⅱ	B			
里山マイスター演・実習Ⅰ	C	1年次	2	栽培計画法、生育調査
新農法特論Ⅰ	A	1年次	2	地域資源・環境調査法
	B			
新農法特論Ⅱ				
自然共生型能登再生論Ⅰ		地域資源・環境活用		
自然共生型能登再生論Ⅱ				
ニューアグリビジネス創出論Ⅰ		起業、経営、情報技術		
ニューアグリビジネス創出論Ⅱ		起業、経営、情報技術		
地域づくり支援講座Ⅰ		地域活性化のケース・スタディ		
地域づくり支援講座Ⅱ				
先進事例調査実習		2年次	2	先進事例現地調査
里山マイスター基礎概論		1年次	2	ゼミ単位の演習
卒業課題演習	A	実践(ゼミ、卒論)		
	B	論文個別指導		
	C	2年次	2	グループディスカッション
卒業課題研究(論文)		2年次	10	問題設定能力、調査立案・遂行能力、 情報分析能力、プレゼンテーション能力
合計			54	

【講義】単位制

・隔週金曜(1コマ)・毎週土曜(4コマ)

※1コマ90分、年間約180コマ実施

卒業論文の作成



【評価指標】

- ・問題設定能力
- ・調査立案能力
- ・情報分析能力
- ・実現可能性
- ・プレゼンテーション能力

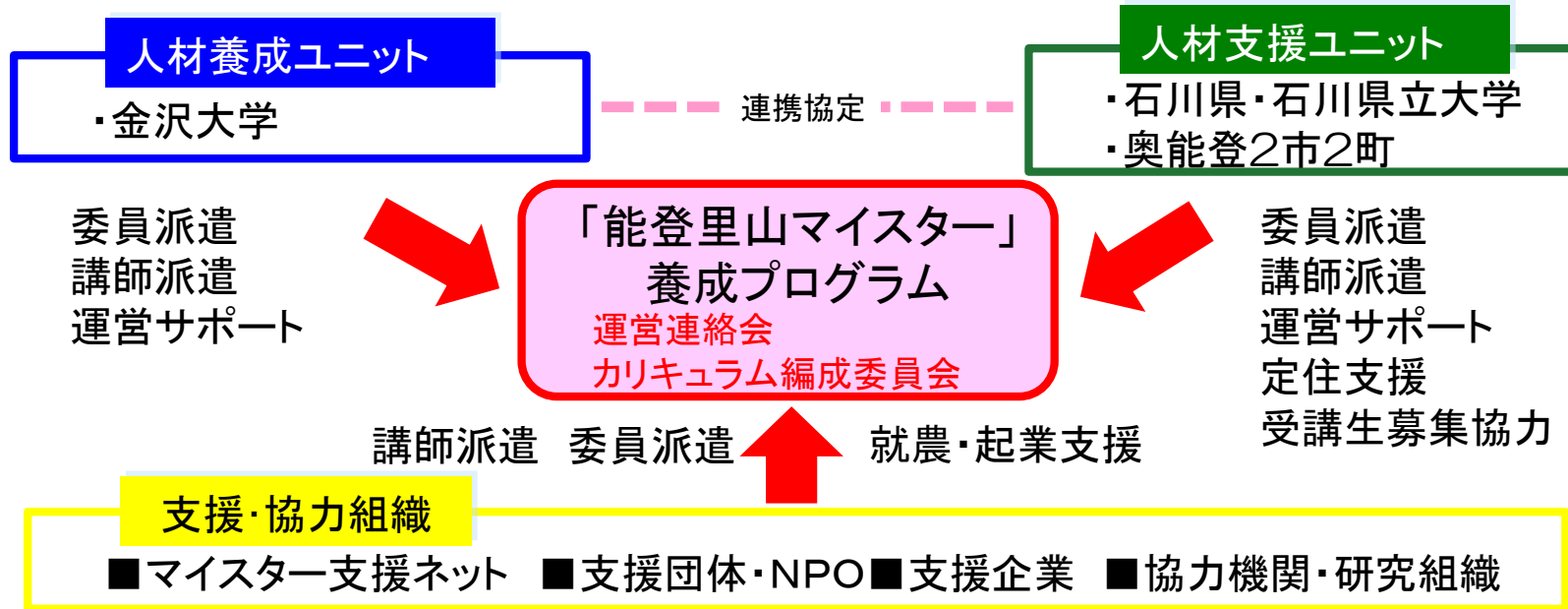
【特徴】①幅広い分野(自然＋社会、科学知＋在来知)

↓ ・多様な地域資源 ・マルチタスク

②卒論を通じた実践

・内発性を重視

実施体制：地域との連携



教員スタッフ



中村浩二教授（金沢大学）
「能登里山マイスター」養成プログラムの代表研究員



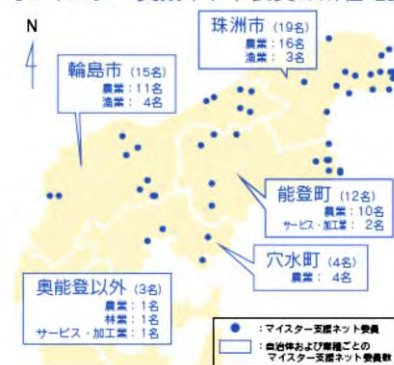
北原八郎さん（珠洲市）
マイスター支援連絡会代表



※マイスター支援ネット：53名

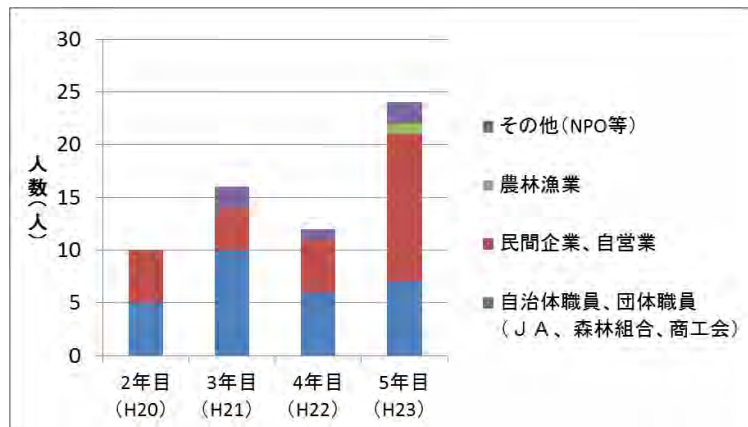
地域の支援者（地域リーダー、農林漁業者、起業家等）

【マイスター支援ネット委員の所在地】



5年間で62名を養成

修了生の所属（受講時） ※修了生のみ



入講生の居住地（入学時・計84名）

- ・奥能登地域 ……61%
- ・県内（奥能登以外）…21%
- ・県外（移住者） ……17%
- ・その他 ……1%

県外移住者のうち、修了後の
奥能登への定着率86%

・地域内外，異業種のネットワーク

【修了生の取組み事例】

企業の農業参入
（1期生）



水産加工メーカー → 農業参入＝農業部門の担当者
・耕作放棄地等を活用し26haを耕作＋25ha新規借受
・6次産業化への取組み
⇒周辺の農林漁業者、食品関連事業者とも連携



デザイナー
として自立
（3期生）



アメリカ留学などを経験し、東京からIターン

- ・個人事業主として独立
- ・在来種「川浦からし菜」の種を使ったマスタードを商品化
- ・現在は、広告デザイン（農家民宿HP等），
地域デザイン（イベント企画，商品開発提案等）を
行いながら，移住相談にもものる



後継プログラムと今後の展開

後継プログラム



●大学、自治体の負担で継続（2012～）

1期生22名修了
2期生23名修了
3期生24名が受講中

関連プログラム① ：地域課題プログラム

地元自治体の提案による研究・講座



関連プログラム② ：能登の世界発信プログラム

世界農業遺産（GIAHS）に認定された
能登の里山里海の価値を世界に発信



関連プログラム③ ：イフガオ里山マイスター養成プログラム

フィリピン大学、イフガオ州立大学、現地自治体等
と連携し、GIAHS「イフガオの棚田」の
持続的発展のための人材養成プログラム構築に協力
（JICA 草の根特別事業）



写真：いずれも金沢大学提供資料より

今後、

- ・人材養成プログラム
- ・里山・里海の再生・活用の研究
- ・COC事業

総合化

地域再生の拠点となり、
グローバルに発信

プログラム実施の意義と地域活性化における課題

①多様な人材の掘り起こしとネットワーク形成

- ・地域外部の人材
 - ・地域内部の人材
- ➡ 個人でできないことも、ネットワークで可能に

②支援・協力者サイドの変化

- ・支援者の掘り起こし，
受講生との交流
- ・連携自治体における組織・
施策への反映

関係自治体の組織・施策への反映

石川県	・里山創成室の新設 ・いしかわり山創成ファンドの創設
珠洲市	・自然共生係の新設 ・自然共生研究員の採用
輪島市	・里づくり推進室の新設
奥能登2市2町	空き家バンク，定住助成金等の拡充

➡ 育成した人材が活躍する場，機会の形成

地域との連携のしやすさ
・過疎地域での取組み
・大学が主体

③拠点形成による地域との長期的な関わり

- ・受講生への長期的なフォローアップ
- ・奥能登地域をフィールドとした研究の充実，成果の蓄積

課題：・リーダーとしての活躍の場の形成（受け皿づくり）
・地域のニーズへの対応
・研究，大学教育との一層の連携

ご清聴ありがとうございました

